

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

奈良県

2 地域再生計画の名称

大和路歴史首都ルネッサンス事業計画 - 藤原京の時代 -

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成17年度～平成19年度

4 地域再生計画の意義及び目標

「法隆寺の仏教建造物」、「古都奈良の文化財」に続き、本年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」が本県3件目の世界遺産に登録されるなど、奈良県は、“日本文化発祥の地”として世界に誇れる歴史文化資源や豊かな自然を数多く有している。併せて、人と鹿が共生する世界でも珍しい「奈良公園」をはじめ、歴史と自然がこん然と溶け合った“奈良”ならではの観光資源を持つ本県は、全国的に知名度が高く有数の観光地として評価されてきた。

また、2010年には、平城遷都1300年という大きな節目の年を迎え、歴史文化の集積拠点といえる奈良の地を舞台に平城遷都1300年記念事業を計画し、文化の多様性への理解や認識を国際社会に呼びかける取組を進め、記念事業として、奈良・平城京の地で国内外から多くの人々が集い、さまざまに異なる歴史文化を知り、語り合える「歴史文化の祭典」を開催したいと考えている。

加えて、2010年に実現したい奈良県の姿として、- 歴史文化交流の首都、「関西の憩いのオアシス」- を掲げ、歴史と伝統に根づいた日本文化を発信する中心的な役割を担いながら、多彩な観光・交流活動を通してわが国や世界に貢献し、国内外の多くの人々が心のオアシスと感じ、訪れ、集う世界レベルの交流拠点を目指している。

さらに、この奈良県の姿を実現するために「大和路歴史首都ルネッサンス事業」を展開している。これは、2010年までの期間を「奈良県のトータルイメージである歴史文化における正統性やその普遍的価値」と「個々の地域が持つ文化の個性と多様性」を発見・認識・発信する期間と位置付け、奈良県における観光振興や交流拡大の推進に積極的に取り組んでいくものである。

「大和路歴史首都ルネッサンス事業」では、県内において、古代首都が変遷してきた史実を踏まえ、時代順に「飛鳥京ルネッサンスキャンペーン」「藤原京ルネッサンスキャンペーン」「平城京ルネッサンスキャンペーン」と連続して展開し、2010年の平城遷都1300年記念事業につなげていく予定で、今回の「藤原京の時代（藤原京ルネッサンスキャンペーン）」では、同記念事業への期待感の創出とともに、藤原京が位置する橿原市を中心とする奈良県の中中部地域における観光資源を活かした地域の活性化をその目的の一つとしている。

本県の中中部地区は、古都があった明日香村、橿原市のほか、初期大和朝廷の所在地であった桜井市、古事記や日本書紀に何度となく登場する宇陀地域をはじめ、わが国を代表する数多くの国宝や重要文化財を有する市町村から構成されるが、それらは、相互に十分連携されておらず、観光における現況は依然として「点」と「点」にとどまり、地域全体としてのイメージや統一感に欠ける感は否めない。

一方、各地域においては、住民レベルでも観光面にスポットをあてた地域づくりが萌芽しており、これらの動きを把握し、既存の観光資源とともにストーリー性を付与することで「点」を「線」に変え、多くの人々に当該地域の魅力を認識し、訪れていただくことを目標とする。

その実施内容にあたっては、テーマ性のある効率的なPR活動や歴史性の強いイベントを計画している。イベントの例としては、公道を利用した古代衣装による「時代行列」や歴史的な観光資源を巡るウォーキングイベントなどを想定している。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

奈良県中中部地域を訪れる観光客は、現状では多くの場合、日帰り中心で滞在時間が短いため、観光消費額が小さく、観光産業の地域経済への影響は限定的であると思われる。これを本計画により「点」から「線」に変え、観光客の増加を図るとともに、当該地域での滞在時間を延ばすことで、飲食店、土産物店、宿泊施設、交通機関など、地域においてより多くの消費がなされる経済的効果が期待される（宿泊型観光の事例では、他地域での宿泊から当該地域内での宿泊へ、或いは、1泊2日から2泊3日へ）。

また、住民の観光面にスポットをあてた地域づくりを、広域での広報や他地域との連携支援といった手法での集客の後押しにより、成功事例を創り出すことに努める。そして、それらの成功事例に触発され、多くの地域で住民主体の活動が広がり、地域住民がその活動を通して地域の魅力を引き出し、再認識することで、その地に住むことへの満足感が高まるといった社会的効果が期待される。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

なし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

特になし

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援措置を受けようとする者

奈良県

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

奈良県では、「平城遷都 1300 年記念事業」の開催年となる 2010 年に実現したい姿として、- 歴史文化交流の首都、「関西の憩いのオアシス」- を掲げ、歴史と伝統に根づいた日本文化を発信する中心的な役割を担いながら、多彩な観光・交流活動を通してわが国や世界に貢献し、国内外の多くの人々が心のオアシスと感じ、訪れ、集う世界レベルの交流拠点を目指しており、その実現に向けた取組の一つとして「大和路歴史首都ルネッサンス事業」を展開している。

また、本県では、2010 年までの期間を「奈良県のトータルイメージである歴史文化における正統性やその普遍的価値」と「個々の地域が持つ文化の個性と多様性」を発見・認識・発信する期間と位置付け、観光振興や交流拡大の推進に積極的に取り組んでいるところである。

今回の地域再生計画は、「飛鳥京から藤原京を経て平城京に至る、歴史軸における古代首都の変遷過程」に関係する各地域で、それぞれの時代を表象する伝統行事や新旧のイベントを実施することにより地域の活性化を促進するとともに、全国に向けて本県の魅力を発信し、奈良県のアイデンティティーを一層高めようとするものである。本県では、各般にわたる外国人観光客誘致促進のための施策を実施しており、平成 16 年度において、支援措置である外国人対応の観光案内所のサービスの充実に資する人材育成のための外国人対応マニュアルや研修を活用し、外国人来訪者への案内の充実を図る。

また、来年度から実施する藤原京ルネッサンスキャンペーンは、橿原市、明日香村をはじめとする「藤原京の時代」の舞台となった各地域の魅力を高める方策として、既存の点在する観光資源にストーリー性を付与して線として結びつけ、観光周遊ルートを形成するなどの事業展開を図ることにより、多くの人々に当該地域の魅力を再認識していただき、ひいては本県の観光振興に寄与することを目標としている。このためには、本県の魅力を全国に広く情報発信することが必要となるが、支援措置である、国から情報提供される他の地域の取組を参考に、効率的な情報発信を行う。